

足寄動物化石博物館カルテ

資料・研究	地域アピール	計画	職員・運営
第1標本（アショロア）発見			1975
地域の宝の発掘			1976
	使命 収蔵資料は足寄動物群と呼ばれる化石である。世界的に貴重なデスマスチルスや原始的な鯨類を含み、海生哺乳類の進化研究では第一級の資料とされる。		1977
			1978
			1979
第2標本（ベヘモトプス）発見			1980
鯨類化石発見			1981
			1982
第1・2標本が東柱類と判明	第1回デスマスチルス・シンポ	化石作業所開設	1983
研究者の協力			1984
	地域への普及		1985
	デスマシンポ報告集刊行		1986
アメリカとの資料交換	ロサンゼルス自然史博物館学芸員来町	「ふるさと創生事業」に博物館案	1987
	〃	「ふるさと創生事業」決定	1988
	鯨類化石の名称報告（記載は95年）		1989
	動物化石講演会	基本構想策定	1990
第1標本北大から足寄町へ移管		基本設計	1991
		実施設計	1992
		建築・展示工事着工	1993
		建築工事竣工、設置条例制定	1994
	第2回デスマスチルス・シンポ		1995
レプリカの活用			1996
			1997
			1998
			1999
			2000
最古の鯨のレプリカ交換		アショロア復元完成公開	2001
			2002
最古のアカボウクジラ確認			2003
			2004
流水で座礁したシャチの収集			2005
			2006
			2007
継続的な資料収集			2008
	地域に技術定着		2008
	展示への反映	町内製作シャチ骨格展示	2009
			2010
			現館長採用
			14年
			7年
			足寄動物化石博物館オープン
			現館長退職
			NPOによる意欲的な運営
			NPO法人による運営、学芸員3名体制の実現

キーワード
・全体構想 化石工場
・展示 展示と建築の一体化
1) ジオラマと造作の排除
2) すべてが移動可能な展示台
3) 職員で更新可能なグラフィック

基本構想：足寄動物化石博物館の理念→館長のひとこと
1) 足寄動物化石群を保管・管理すること
→保管・管理だけなら倉庫があればいい
2) 足寄動物化石群を継続的に収集し、研究すること
→収集、研究なら研究所があればいい
3) 足寄動物化石群の標本・研究成果を公開すること
→博物館を作るからには、成果の公開が必要で
4) 足寄動物化石群を町の財産として活用すること
→さらには、化石を町の財産として活用していきたい